

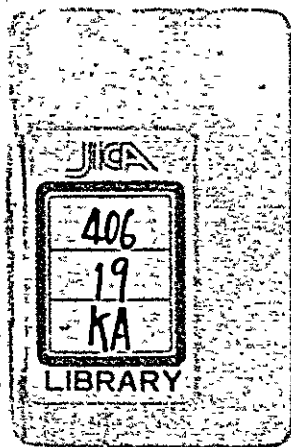
NO. 17

昭和47年3月 初版

昭和50年8月 改訂版

# 各国事情のしおり

—— エティオピア編 ——



1975・8

国際協力事業団

## は し が き

本小冊子は、技術協力のために海外に派遣される専門家のオリエンテーション用資料としてエチオピア国に派遣されている専門家の方々からの調査報告をもとに作成したものである。

本小冊子は、専門家の日常生活に密着した任国事情、特に衣食住、気候、教育、公共施設、治安、対日感情等を重点に作成した。

本小冊子の各項目については、今後も適時修正をおこなってゆくこととしたいが、本小冊子が同国に赴任される専門家の何らかの参考になれば幸である。

昭和50年8月

JICA LIBRARY



1062194[4]

国際協力事業団  
総務部長 松原 進

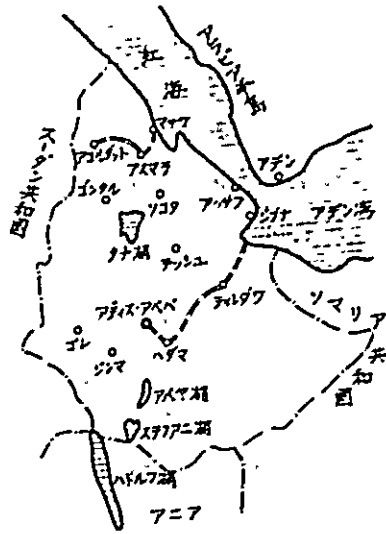
国際協力事業団	
受入 月日 84. 7. 27	406 190
登録No. 02783	KA

## 目 次

I 任国事情	2
1. 住宅（住宅事情，家賃，ホテル，什器，備品， 電気，水道，電話，燃料）	2
2. 食品（日本食品，価格，外食）	6
3. 衣類，日用品	9
4. 使用人	10
5. 医療（医療事情，医薬品，疾病の種類）	11
6. 子弟の教育機関（教育制度，教育機関，授業料， 通学）	13
7. 娯楽設備（保養地等，余暇，日本人クラブ等）	15
8. 電 力	17
9. 交通（交通事情，レンタカー，自動車購入，運 転免許，ガソリン代）	17
10. 為替（相場，対日送金，滞在費受取方法）	22
11. 出入国管理（税関検査，外人登録，ビザ更新等）	23
12. 便宜供与（種類，カウンターパート等，免税特権）	24
13. 通信，運輸	25
14. 言語（公用語，英語等の普及度，語学学習）	26
15. 気 候	26
16. 治安（一般情勢，夜間外出，緊急時の連絡方法）	27
17. その他（対日感情，気質，風俗，習慣，新聞・雑 誌，理髪，美容，クリーニング，買物）	28
II 同国に対する我国の技術協力実績	33
III 大使館連絡先	41

エチオピア国略図

- ☆ 位 置 北緯 3° 15' ~ 18°  
東経 33° ~ 48° (アフリカ州東部)
- ☆ 面 積 118 万km<sup>2</sup>
- ☆ 人 口 2,600 万人(1973)
- ☆ 首 都 アディスアベバ  
(人口約 80 万人)
- ☆ 通貨単位 エチオピアドル  
1 ドル = 20.7 エチオピアドル
- ☆ 宗 教 キスリト教(コプト派)が 2/3  
回教 1/3 その他
- ☆ 教 育 8.4 制 大学は学部により異り法文 4, 理工 5, 医 6
- ☆ 公 用 語 アムハラ語  
英語(第二公用語)
- ☆ 住 民 アムハラ族が社会の主体を占め全人口の約 1/4 で他にガラ族が全人口の 40%, その他チグリ族, ソマリ族などがある。
- ☆ 在留日本人数 約 150 名(青年協力隊員約 40 名)  
1974 年 9 月に帝政より軍事政権に変わり新政府は社会主義政策をすすめており、土地及び主企業の国有化も実施された。
- ☆ 国民所得 1 人当り 80 ドル/年: 73 年統計
- ☆ 主幹産業 農業, 牧畜(国民の 90% 以上が従事)
- ☆ 貿 易 輸出: コーヒー, 皮革, 穀物など約 500 万ドル: 73 年統計  
輸入: 綿製品, 機械類など約 440 万ドル: 73 年統計  
我国よりの輸入品は自動車, 電気製品, 通信機器, 日用雑貨品など広い範囲に亘り輸入されており我国への輸出品としてはコーヒー, 穀物, 食肉などであり我國の 6 大商社も当市に事務所を設けている。



## I 任国事情

### 1. 住 宅

#### (1) 住宅事情

住宅の借上は容易であるが最善の方法としては赴任当初は短期間ホテルに滞在し勤務先及び子女の居る場合は通学予定校の所在地などを考慮し当地に先住している日本人に相談して最も立地条件のよい便利な地域を選定後所望の住宅を探す方法がよいと思われる。

通常は契約期間が最短1年間であり敷金を2～3ヶ月分最初入居時にとられるので慎重に選定をしないと1年以内で転居することになれば敷金は返金されないのこのことを十分考慮せねばならない。特殊なケースとして契約期間を決めない契約方法が可能な場合は、この様な問題はおきない。

#### ① エージェントの有無

個人営業の周旋業者が多数ホテル周辺にたむろしているが、周旋業者に依頼する場合は所望の住宅を探したのち家主と契約する時には、先住の日本人又は勤務先の当国人に立会ってもらって第3者を入れて契約した方が、後でトラブルを起こさないですむ。

#### ② 入手の難易度

一軒家屋、アパート共に容易である。

#### ③ 賃借方法

一般には最初の入居時に敷金を2～3ヶ月分と1ヶ月分の家賃の先払をする。敷金は契約期間満了時に返金される。独立家屋は家具付はない。アパートは家具付もあるが家

具なしの場合の約3割家賃が高くなる。

(c) 家賃(年間)

① 独身者

アパートの場合 4500 ~ 6500 エチオピアドル(家具なし)  
6000 ~ 8000 エチオピアドル(家具付)

② 家族2人

アパートの場合は独身者と同じ。

借家の場合 6000 ~ 8000 エチオピアドル(家具なし)

③ 家族4人

単独家屋で2ベッドルーム程度の場合

6000 ~ 9000 エチオピアドル(家具なし)

(d) ホテル

一般に長期滞在のための割引料金制度はない。外人用のホテルは大体3段階に分けられる。この程度であると衛生面、身の安全性に不安がない。下記ホテルは何れも日本人客の利用者の多いものである。

ホテル名	宿泊料金(朝食を含む)		食事料金(アルコール類を含まず)	
	シングル用	ダブル用	朝食	夕食
ヒルトン	53エドル	70	10	20
ギオン	30	50	10	15
エチオピア	25	40	5	10
ラース	20	35	5	10

(エチオピアドル=140円)

長期滞在の場合は日本の様な貸マンションを探してもないのでホテルと直接交渉し好みの部屋を貰う様にしたらよい。

(二) 什器・備品

① 携行を必要とする食器類等

日本式食事のための食器類は当地では購入できないので例えば茶碗、茶器一式、はし、割箸、おわん、しゃもじ、摺鉢、大根おろし、すりこぎ包丁、たわし、湯沸し、鍋、フライパンは持参した方がよい。釜は不要。ご飯は高压釜でないとたけない、高压釜は市販している。コーヒーセット、ナイフ、フォークその他洋式器具は当地で購入でき、値段も3割程度高い位である。

② 入居当初必要とする経費

当地には家具付きの住宅は殆んどない。住むためには一応下記の品物を取揃える必要がある。

冷蔵庫	800 エドル
アイロン (220V用)	70 #
卓上電気スタンド	35 #
床上電気スタンド	120 #
ガス器具 (炊事用)	300 #
ベット (シングル)	250 #
# (ダブル)	350 #
食卓	150 #
椅子	40 #
応接セット	500 ~ 1,000 #
カーテン	15 エドル / m
カーペット	200 #
台所用品 (鍋、食器、その他)	日本国内価格の3割高
寝具類 (毛布、枕、シーツ)	#
飲料水フィルター	80 エドル

(4) 電気、水道、電話、燃料

① 電 気

一戸建住宅は家主が入居前に電力会社との契約を済ませているので、入居後すぐ使用できる。風呂沸しには電気ヒーターを使用するので電気代金は一般に50～100エドル程度かかる。アパートに入居の場合は自分で電力会社に行き新規申込をせねばならない。家主はやってくれない。然し午後申込んでもその日の中に受電でき非常にサービスがよい。

② 水 道

水道は一戸建住宅、アパート共自分で新規申込する必要なく入居後すぐ使用できる。

水道使用料は50セント/Km<sup>3</sup>

③ 電 話

一戸建住宅は家主名義でついているので入居後すぐ使用できる。アパートの場合は自分で電話局に新規申込をせねばならない。申込料130エドル支払っても引込む迄3ヶ月位かかるので家主などにたのんでひんぱんに催促する必要がある。サービスは非常に悪い。

④ 燃 料

炊事用は多くの家庭でプロパンガスを使用している。値段は日本と大体変らない。雨期(6～9)は夜間の暖房用として薪、電気ヒーターを使用している家庭が多い。



## 2. 食 品

### (1) 食料事情

#### ① 一般的食料事情

米、パン、魚、肉類、野菜等入手できるが米はインド米、エジプト米などは日本式の炊飯方法ではくさくて食べられない。イタリヤ米は日本米と似ているが1Kg5エドルである。野菜は白菜、大根など漬物にできるものはない。日本より種を持参し自分でつくることは出来る。

#### ② 日本食品の入手状況

味噌、日本茶、しいたけ、昆布、わかめ、梅干、干魚、海苔等の日本食品は現地では入手できない。醤油、ラーメンはスーパーマーケットで売っている。

#### ③ 水、燃料等

水 — 都市には水道設備があり、土地の人間は勿論、外国人も馴れた人は飲んでいるが、一応水道の水は煮沸、沝過して飲む方がよい。普通飲用には瓶詰の水または水道水を沝過して煮沸して冷して飲んでいる。

燃料 — 燃料としては電気、プロパンガス、木炭、薪等がある。厨房用にはプロパンガス、風呂沸用は電気ヒーターを使用している。薪は暖房用であるが、雨期の6月～9月の夜間に必要である。

調理器具類 — 純日本風のもの（すり鉢、カツオ節削り等）を除いて現地調達可能である。

調味料 — かつお節、化学調味料、好辛料、だし昆布等日本風のものはないので赴任期間中に使用するだ

けの十分な量を持参すること。またソースも日本風の味のものではない。

④ 日本食レストランの有無

無い。中国料理店は3軒ある。

(2) 価 格

1 エドル = 140 円

品 名	数 量	金 額
米	1 kg	5 エドル
パン	1 斤	0.5 #
肉	牛	1 kg 3.5~5 #
	豚	1 kg 3.0~4.5 #
	鳥	1 kg 3.5 #
	羊	1 kg 2.5 #
	ハム	1 kg 5.0~10.0 #
魚類	エビ、カイ	1 kg 6 #
	一般魚	1 kg 4 #
野菜	ナス	1 kg 1.5 #
	人参	1 kg 0.75 #
	玉ネギ	1 kg 0.75 #
	レタス	1 kg 1.5 #
	ジャがいも	1 kg 0.5 #
	ホーレン草	1 kg 1.5 #
	キャベツ	1 kg 0.75 #
	ネギ	1 kg 0.75 #
	トマト	1 kg 1.0 #
	ピーマン	1 kg 1.5 #
	キウリ	1 kg 1.0 #
	赤かぶ	1 kg 0.75 #
	果物	ネーブル

品	名	数 量	金 額	
果物	オ レ ン ジ	1 kg	1.5 エドル	
	パイナップル	1 ケ	2.0 "	
	リ ン ゴ	1 kg	3.0 "	
	パ ナ ナ	1 kg	0.5 "	
	イ チ ゴ	1箱(300g位)	1.5 "	
冷凍食品	イ ン ゲ ン	1 袋	2.0 "	
	魚	1匹(輸入物)	3 "	
	アイスクリーム	1箱(10ヶ入)	3.0 "	
副食品	バ タ ー	500g	5.0 "	
	牛 乳	1 ℓ	1.0 "	
	粉 末 牛 乳	225g	6.0 "	
	粉 末 コ ー ヒ ー	225g	9.0 "	
	紅 茶	150g	3.0 "	
	サ ラ ダ 油	5ℓ 罐	3.0 "	
	マ ヨ ネ ー ズ	8オンス	2.0 "	
	ケ チ ャ ッ プ	13オンス	3.0 "	
	食 用 酢	約3合	1.5 "	
	砂 糖	2 kg	3.0 "	
	塩	800g	1.0 "	
	酒類	ビール(現地産)	小瓶1本	0.6 "
		"(輸入)	"	1.5 "
ワイン(現地産)		1本(約3合)	2.0 "	
"(輸入)		1本(約3合)	10 "	
ウイスキージョニ黒		1 本	25 "	
ウイスキージョニ赤		1 本	20 "	
コニャック(ナポレオン)		1 本	30 "	
ブランデー		1 本	20 "	
タバコ		輸 入 品	20本入	2.0 "
		国 産	20本入	0.9 "

#### ㊦ 外 食

外食する場所は洋風、中華風、エチオピア風などレストランは市内に沢山ある。値段はアルコール類なしで10～15ドル程度。中華料理は味もよく日本人には食べ慣れているのでよく利用されている。

### 3. 衣類、日用品

#### ㊦ 衣料事情

##### ① 一般的衣料事情

何でも買ってはいるが品質、寸法の面で合わないのだからでは購入しないつもりで日本より任期中に使用する量だけ持参するのがよい。

##### ② 必要とする衣類

背広及び婦人用スーツは合物で一年中過せる。下着は長そでシャツ、半そでシャツ、合物ステテコ、靴下、ストッキングを多量に持参のこと。セーター、カーディガンなどの薄物は1年中使用する。日本(東京)の4月5月の気温が1年中続くと思って準備すること。雨具類は雨傘を持参のこと。レインコートは交通機関が主として自家用車であるので使用する機会は稀である。他地に旅行する場合は日本(東京)の7月頃の気候となる。

#### ㊦ 日 用 品

欧米製品が市場に出廻っているのでそれで間に合せることができるが、例えば男子整髪用ポマード、婦人用化粧品及び櫛は使い慣れた日本製品を是非持参した方がよい。

#### 4. 使用人

##### ① 職業紹介所

職業紹介所はあるが使用人雇用時紹介所に斡旋依頼は誰もしていない。

##### ② 具体的雇用方法

一番よい方法としては在留日本人より紹介してもらう方法である。在留日本人に頼めば以前に日本人家庭に働いていた女中又は近日中に帰国する日本人家庭に働いている者などを紹介してくれる。日本人の家庭に慣れている女中の方が仕事をさせるのにも楽であり、身元もはっきりしているのでよい。前任者の使用人がおればそれを引継ぐ方法もよい。この他家主の紹介による雇用方法がある。何れにしる労働力は豊富にあるのでその中から選択して雇用できる。

##### ③ 給与月額

女中	60~80	エドル	(住込み, 食事なし)
			(通勤の場合も同じ)
門番	45	#	(住込み, 食事なし)
運転手	120	#	(通勤, #)

##### ④ 最低必要とする使用人

女中, 門番, 家族同伴の場合は運転手 各1名

アパートの場合, 門番は建物全体につくから, 各人で雇う必要がない。

##### ⑤ 雇用, 解雇に際して特に注意すべき事項

雇用時に契約書をつくり試用期間, 雇用期間, 1日の勤務時間帯, 有給休暇附与方法, 給与及び退職金の額, 住込の場合に提供する水, 電気, 燃料, 通勤の場合の通勤費支給の有

無等をはっきりさせておくこと。

一般には試用期間は2ヶ月程度、有給休暇は各日曜日及び祝祭日。

退職金は1年雇用時は2ヶ月、住込の場合は水、電気、燃料費は雇主持ち、通勤の場合は給与以外にバス代を支給している。

解雇する際は2ヶ月位前に通告し承諾させておくこと。

## 5. 医 療

### (1) 医療事情

#### ① 施設一般

市内にはアメリカ系総合病院をはじめ個人開業医院が沢山ある。日本での人口10万都市程度と思えばよい。当地の日本人は入院を要する長期治療は上記のアメリカ系病院（ZAUDITU, HOSPITAL）の専門医にかかっており、軽度の病気は個人開業医にかかっている様である。特殊な病気は別として一般的な外科、内科の病気であれば治療できる。又精密な健康診断も上記病院で専門医より受診可能である。

#### ② 日本人医師の有無

いない。外務省派遣の医師団が年2回程度巡回診療に当地にくるので、健康診断はその際に受診出来る。

#### ③ 出産についての安全性

日本人婦人の出産の場合は、上記アメリカ系病院に入院しているが皆無事出産されているので大丈夫と思われる。

#### (2) 医薬品

前記の総合病院には勿論、薬局も併設されていて医師の指

示薬品は全て準備されているので通院、入院の際は病院で投与を受けられる。市内にも薬局は沢山ある。

然し、クロマイ等の抗生物質薬品、下痢止、整腸剤、風邪薬、頭痛薬、目薬、消毒薬、ガーゼ、包帯、サロンパスなどの家庭常備薬及び常用薬、蚊取線香、殺虫剤は是非十分な量を多種持参すべきである。

#### (イ) 疾病の種類

##### ① 風土病的なもの

大抵の病気は全部存在する。低地ではマラリア、全国的にはコレラ、レブラの患者が相当いる。狂犬病も多い。

然し、アジスアベバで正常な日常生活をするかぎり神経質になる必要はない。

日本人でマラリア、コレラに感染した話は聞かない。地方に旅行し外食、外泊する場合は十分注意せねばならない。

##### ② 日本出発前に特に予防注射をしておくべきもの

世界保健機関（WHO）より指定をうけている予定接種は種痘、コレラ、黄熱病の3種である。

##### ③ 健康管理上の注意事項

何れの開発途上国も同じだと思うが一步自宅を出れば、非衛生的な環境の中で生活せねばならないので常に自分自身の健康保持のために注意すべきことは勿論であるが、特に当国はその主要都市が高度1,000 m以上の高地にあり、アジスアベバ市は高度2,400 mの高地である。

当地に赴任後6ヶ月間位は人によっては稀に空気が稀薄であるため、時々息苦しくなったり、夜眠むれない状態が続くなどの高山病症状の現れる人がある。この場合殆んど

の例では、週末を 2,000 m 以下の保養地で過ごすなどの方法でだんだんと身体を慣らして正常な体調に回復している。

外食は衛生管理のゆきとどいたレストランを利用し、帰宅後の手洗、ウガイを実行していれば、特に病の感染に神経質になることはない。

## 6. 子弟の教育機関

### (1) 教育制度の概要

小学校 (Elementary School)	( 5 ~ 6 才で就学 )
	8 年
中学校 (Secondary School)	4 年
大 学	4 ~ 6 年

当国は義務教育制はないが、国立学校における教育はすべて無償であるのに係わらず、一般の就学率はかなり低い。

( 文盲率 90% )

### (2) 通常専門家の子弟が利用している教育機関

当国ではアジスアベバ市内にのみ子女の通学可能な学校はあり地方に父母のいるアメリカ人の子女も当市内学校の寮に入寮して通学している。

当市内にはアメリカンスクール、グッドシェパードスクール、( 米国 ) イングリッシュスクール、ジャーマンスクール、フレンチスクール、イタリアンスクールなど欧米各国別に外人用の学校があるので日本人子女もこれらの学校に通学している。

一般には小学生、中学生はイングリッシュスクールに入学し、高校生は、グッドシェパードスクールを利用している。

フレンチスクールに通学している子女もある。転入学する場合



合は新学期より入学することになるので数ヶ月入学迄待たねばならない場合もあるが、この期間は英語の家庭教師をつけて自宅で会話の勉強をさせるなどしている。グッドシェパードスクールは転入の際入試があり成績によって転入する学年を決めているので英語力を十分持ってないと希望学年より1年下に入学させられることになる。

当地高校在学後日本の高校へ転校する場合は受入校にもよるが、県立高校には横すべりに転入は難しい様で転入試験を受けねばならないが日本国内のアメリカ系ミッションスクールには当地グッドセパードスクールの在学証明書をもって転入できるようである。

日本の義務教育期間である中学生迄であれば、イングリッシュスクール、グットセパードスクールの在学証明書で横すべりに日本国内の小、中学校に転入出来ている。

#### (イ) 授業料

幼稚園	50	エドル(月額)
イングリッシュスクール幼稚園部		
幼稚園部	85	エドル(月額)
小学部	100	”(“)
中学部	120	”(“)
グッドシェパードスクール	年額	2200 エドル
アメリカンスクール	年額	2500 エドル

#### (ロ) 通学方法

何れの学校に通学している生徒も自家用車で送迎されている。片道の距離は住宅より学校迄遠いところで20分程度である。

## 7. 娯楽設備

(1) 保養地, ゴルフ, ボーリング, 映画及びテレビ, ラジオ等

### <保養地>

当市アジスアベバは海拔 2400 m のところにあるので市の周辺の低地(海拔 1500 m 以下)に数ヶ所ホテル又はロッジ設備のある保養所がある。当市より 2~4 時間で行けるので週末にも利用できる。保養地では魚釣り, プールでの水泳, 周辺の野生動物, 鳥類をみて過すことができる。

### <ゴルフ場>

当市在住の男女成人に週末の娯楽として最も利用されている場所である。年会費 200 エドル払えば雨期の 6~9 月を除いていつでもキャデイフィー(3 エドル)のみで楽しめる。月 1 回程度クラブコンペもあり別に日本人のみのコンペも年数回行われている。

市の中心より 10 分位の場所にありコースの状態は殆んど平坦で起伏に富んでないが娯楽としては十分楽しめる。グリーンはサンドグリーンである。

ゴルフ道具は殆んどの人が日本より持参している。ボール, 手袋などは市内のスポーツ店で購入できる。

### <ボーリング場>

市内に 2 ヶ所ありゴルフに次いで日本人の間で盛んな娯楽である。貸靴, 貸ボールもあるが数も少なく非衛生的であるので, 愛好者は自分のものをもっている。当地スポーツ店にて販売されているので当地でも購入できる。

### <映画館>

市内に数ヶ所あり洋画が上映されているので, いつでも

観賞できる。料金は5エドル程度である。

<テレビ、ラジオ、カセットテープレコーダ>

テレビ局は1局で白黒で夜間7～11時の間放送されている。殆んどの番組はアムハラ語であるが週2回程度洋画、サッカー試合、プロレス試合などの放送がある。テレビの放送方式はCCIR方式(西独方式)であり日本国内の放送方式と違うので日本でテレビセットを購入持参する場合は「エチオピア国で使える方式の受像機を買いたい」旨をテレビ店ではっきり云って購入すること。当地でもテレビ受像機は購入できるが日本国内での価格の約3倍である。

ラジオの放送局は2局あり、アムハラ語の他各国語で放送されている。日本より放送されている海外向短波放送の受信は家庭用短波受信機では不明瞭で受信できない。

日本人家庭で最も娯楽用に使われているものはカセットテープレコーダーによる音響観賞である。好きな音響のテープを沢山持参することをおすすめする。当地で市販されている音響吹込のカセットテープはヨーロッパ風のものであり日本語の入ったものは皆無である

テープレコーダの価格は日本での価格の約2倍である。

(2) 通常余暇の過ごし方

市内ではゴルフ、ボウリング、映画などであり日本人の間でマージャン、囲碁、将棋なども楽しまれている。週末には郊外へのドライブ観光、魚釣りなど。

(3) 日本人クラブ、スポーツクラブの有無料金

当国には在留日本人で組織された「在エチオピア国日本人会」があり会員相互の親睦と情報の交換などしておりレクレー

ションも催されている。

ゴルフ、ボーリング、マージャン等大会の開催の他年1回市内学校のグラウンドを貸切り総合運動会も開催されている。

この他一般的なスポーツクラブとしては

ゴルフクラブ	200	エドル/年
テニスクラブ	100	＃
乗馬	75	＃

等がありクラブ会員となれば自由にいつでも楽しむことが出来る。

## 8. 電 力

家庭用は220V 50サイクルであるから日本国内用の家庭電化製品はすぐには使用出来ないので小型の220Vから100Vに電圧を降げるトランスが必要となる。

当地で市販されている製品は全て220V用となっている。停電は落雷等の突発障害及び工事のための予告停電以外はない。

## 9. 交 通

### (1) 交通事情

#### ① 一般交通機関の発達度、種類

##### ○ 市内交通機関

アヂスアベバ市内の交通機関としては市内バス、タクシー、ハイヤー、自家用車等がある。市内バスの料金は片道15セントで系統数も多いようであるが、外国人、殊に日本人でこれを利用している人は殆んどない。タクシーはその数が非常に多く、また車体は古く不潔である。料金は1人25セント格安であるが、日本と異なり借切りではなく相乗り方式で、行先は予め運転手が定めていて、

その方向に行く客だけをひろって行く。ハイヤーはホテルの玄関に常駐しており、近距離は3エドルである。これは勿論借切り方式である。

以上の3つが大衆用市内交通機関であるが、ハイヤーはともかくとして、日本人の婦人、子供には言語が通じないこともありその利用は無理である。

#### ○ 市外交通機関

飛行機、鉄道、長距離バス等がある。

国内の主要都市および観光地へは飛行機の便があり、人員輸送の面では鉄道より実用的である。

鉄道はアヂスアベバよりディレダワを經由して仏領ソマリアのジブチを結ぶものと、マサツ〜アゴルダト間の2本がある。本数も非常に少なく、観光的目的以外でこれを利用する人は殆んどない。フランスとエチオピアの合併会社が経営している。

長距離バスはアヂスアベバを中心として国内各地まで定期便がはしっており、長距離交通機関として当国人に一番利用されている。

#### ② 道路事情（舗装状況等）

世銀、米国、西ドイツなどの借款をもとにハイウェイの復旧、新設に力をいれているためか、道路事情はこの国の国力から考えると水準以上である。道路の種類として一年中利用できるAll weather roadと乾季のみ利用できる道路とがある。アヂスアベバより主要都市へは、All weather roadが通じている。All weather roadの舗装率は30%程度である。

③ 特に注意すべき交通法規

右側通行である。ロータリーへの進入は先行車の優先が厳守されている。それ以外は特に差異はない。

交通のモラルは非常に低く、自動車は粗暴な運転をおこない、歩行者は全然ルールを守らない。また、ろば、山羊等の家畜が道路交通を妨害することが度々である。

④ 交通事故の取扱い

交通事故の当事者となった経験がないので正確には分らないが、いろいろな話を総合すると、人身事故に対しては厳重な刑事責任が追求されるようである。これは加害者が外国人であるときに特に著しいとのことである。

⑤ 事故補償（保険制度、保険金、補償額等）

保険金は対外補償、自己補償を併せて年額 500 エドル～800 エドル程度である。（保険金は車の耐用年数、排気量及び保険会社により異なる。）

民事的な補償はこの枠内で支払えるようになっている。

(ロ) レンタカー

短期旅行者が観光用に利用する以外で当地在留家庭でレンタカーを利用している話はきかない。借上り使用料金は歩行距離にもよるが大体 1 日 30 ～ 50 エドル見当と思われる。

(ハ) 自動車購入

当国での自動車価格は日本国内価格の約 2 倍であるので最初新車を購入する場合はそれ相当の資金が必要となる。勿論 2 ～ 3 年使用後売却する場合の中古車の価格も日本国内での価格の 2 倍程度で処分できる。中古車は買手市場の状況である。

車種は日本製（トヨタ、ダットサン、マツダ、ホンダその他）の車をはじめ欧米製が多種あるので好みの車を購入出来る。

### ① 購入方法

当市内にある販買会社に行き相談すれば一時払、月賦払何れの方法でも購入できる。月賦払の場合は最低2割程度の頭金が必要である外は支払条件はこちらの都合のよい方法で契約できる。新車については買手市場の状況である。

### ② 資金調達

#### ④ 東銀信託ニューヨーク本店より貸出をうける方法

任期が2年以上の専門家に対して最高限度額US3,000ドル迄を返済期間20ヶ月以内で貸出年利率5.5%の条件で貸出を受けられる便宜がある。（この条件は変更になることがあると思われるので実際に利用される場合は東銀新宿支店に問合せること。）

この制度を利用すると毎月の給与より天引返済となり年利率も低いので最も便宜で有利である。

#### ⑤ 当地の販売会社より月賦で購入する方法

月賦返済額の分については年利率9%で利子がつくので④の方法などで資金を準備しできるだけ頭金を多く支払っておいたほうが有利である。

### ③ 免税特権

A1フォームでは専門家が車を購入する際は免税特権が与えられることになっていても実際にはその免税証明をもらう手続が長くかかる（半年以上）ので免税での車の購入はできないと思っておいたほうがよい。当地で長期間自家用

車を持たなくて生活することは公私両面で不可能に近い。

赴任後車を入手するまでの期間の通勤のための交通機関は配属機関先で車で送迎するなどの便宜を与えてくれるが通勤時以外は車がないことになるので特に家族同伴の場合は赴任後できるだけ早い期間に車を購入せねばならないことになる。

免税特権を受けずに車を購入した場合は最初に多額の資金を必要とする不便がある一方売却する場合は免税車より納税した額だけ高く売れるので金額的には免税車を購入した場合とあまり変わらない。勿論免税で着任後早い期間に車を購入することができればそれが一番よい方法であるので、A1フォームで免税されることになっているのであるから配属機関を通じて強力に関係官庁に接衝してみることは必要である。

#### ④ 帰国時の売却方法、課税

免税車を一般民間人に売却する場合は買主が車の使用期間に比例した関税額を国に納税せねばならない。

一般車として免税特権の適用を受けずに購入した車を売却する場合は勿論自由に処分できる。売却金はエチオピアドルで入るので帰国予定日より早く売買契約をすませ売却金の何割かを契約時に受取る様にしたほうがよい。エチオピアドルをUSドルに当地銀行で交換できる額は非常に小額であるから交換はできないと思ってエチオピアドルの用途を考えておくこと。



(二) 運転免許

① 国際免許の有効性

国際免許では運転は許可されないが国際免許と引替に当国の運転免許証を交付してくれる。帰国時には、当国運転免許証と引替に国際免許書を返してくれる。

② 免許取得の方法、経費等

実技および法規の試験に合格すれば免許証が交付される。法規は英語で受験可能である。試験は日本での試験よりも易しい様である。

200 エドルで免許取得まで実技を教えてくれる学校もある。

(三) ガソリン代

レギュラー	75 セント / ℓ
スーパー	65     〃

10. 為 替

(イ) 相 場

公 定 ( IMF ) 1 アメリカドル = 207 エチオピアドル

(ロ) 対日送金

東銀信託 N.Y 宛手紙で④送金々額⑤受取人住所、氏名⑥送金方法 ( 電信又は郵便 ) ⑦手数料は別途差引いて欲しい旨の連絡⑧サイン、以上④～⑧迄を記入し送付する。又日本の受取人には小切手を送付する。

以上の方法で、N.Y の当座予金口座にあるドルを日本の受取人宛に送金することが出来る。

当地のエチオピアドルを日本に送金することは困難である。

㊦ 滞在費等の受取方法

任期中の在勤手当等事業団よりの送金は、全て東銀新宿支店に払込まれる。東銀よりは東銀信託N.Yのドル建当座預金口座に送金されるから、日本出発前に口座の開設申請を出しておかねばならない。以上の手続は、事業団の担当課にて東銀の担当者呼んで、開設手続の世話をさせていただくことになると思う。

東銀N.Yよりは口座開設及び口座番号、小切手帳を任地の本人宛に送付してくるので、当地の銀行(コマーシャルバンク オブ エチオピア)に預金口座を開設し、東銀N.Yの小切手を切れば即日にエチオピアドルが必要な場合は、小切手を渡すだけでその後の手続はコマーシャルバンク オブ エチオピアですてくれる。東銀N.Yよりは入金都度入金通知書が郵送されてくる。

11. 出入国管理

㊦ 税関検査

① 一般事情

入出国時とも飛行場での手廻り品の検査はきびしくしらべられる。

② 持込禁止品(国際的禁止品以外の)

特になし。

③ 入国に際しての注意事項

一般入国者は、電器製品例えば、カセットテープレコーダーは1箇の持込にも課税される。(申告価格の約60%)。専門家の赴任時は事業団より到着便を当地大使館に連絡していただくので、大使館員の出迎えを受けるので一般入国

者より検査がきびしくない。

(四) 外国人登録の有無

入国後移住局に外国人登録の申請をし、外国人登録手帳の交付を受けねばならない。更新は毎年行うことになっている。この手続は、配属機関先で一切やってくれる。

(五) ビザの更新手続等

上記の外国人登録を行っておけば、外国人登録手帳の記載滞在期間の更新を毎年年初（エチオピア歴の1月は、我々の歴の9月）行うので、特にビザの更新手続は必要でない。

12. 便宜供与

(1) 便宜供与の種類

① 住宅手当等の現金供与

現金供与は一切ない

② 出張旅費、公用車の提供、ガソリン代の支給の有無

専門家の配属先機関により事情が多少異なる様であるが一般的には出張旅費は公用車を使用した場合のガソリン代の外は支給はないので宿泊費等は現地業務費より支払っている。公用車の提供は出張の際及び赴任後自家用車を購入する迄の通勤時にのみ運転手付で提供される。

ガソリン代は公用車を利用しての出張の際のみチケットの支給があるがそれ以外の場合は全てない。

③ その他（住宅提供、現物供与等）

A1フォームで当国が住宅提供をすることになっている。専門家は住宅の提供を受けている。現物供与は事務用品程度である。

(ロ) カウンターパート、通訳  
カウンターパートは優秀な職員が選ばれてくるので後継者を育てる心構えで一緒に仕事をしている。当国では公的に我々の接する相手は英語がわかるので通訳は特に必要ない。

(イ) 免税特権  
入国後6カ月以内の家財道具の持込み(輸入)については免税となる。但し食料品、酒、タバコはその対象とならない。それ以後は特権はない。

### 13. 通信、運輸

#### (イ) 郵便事情

##### ① 安全性、配達システム

アジスアベバには、ところ番地というたものがなく、したがって配達制度はなく、各人が中央郵便局にP.O.BOXを開設せねばならない。宛先が勤務局所になっている郵便物は係の職員が受取ったものを手渡してくれる。小包については送品価格が15エドル(約1900円)を越すものについては送品価格と同額の課税がなされる。

##### ② 電報、電話サービス

アジスアベバ市および主要都市は、電話は自動となっており、加入者数は約5万5000である。

電報は各宛先人まで配達することになっている。

##### ③ 手紙、電報の日本、現地間の所要日数

手紙：日本～エチオピア、5日～10日かかり不規則である。

電報：数時間

④ 主要都市との連絡方法

市外電話の自動化をすゝめておりアジスアベバと主要都市間は自動ダイヤル通話に切替られつゝある。

(ウ) 運 送

家財送付上の手続等

エチオピア向けに家財を海送する場合はジブチ（仏領ソマリア港）までとなる。ジブチ港よりアジスアベバまでの陸送は鉄道によることとなるが、その手配はアジスアベバ在住のエージェントに依頼することになる。この場合信用のおけるエージェントを選ぶことが大切である。鉄道運賃の他にエージェント手数料が必要である。宛先は日本大使館気付で送ること。

14. 言 語

(イ) 公用語、その他

アムハラ語（現地語）と英語が公用語である。

イタリア語、フランス語もかなり普及している。

(ロ) 現地語事前学習の必要性

日本で学習するのは非常に困難であると思われる。又我々が仕事上で接する相手は皆英語が通じるので特に現地語の事前学習の必要はない。

(ハ) 語学学習の施設、受講時間

現地語、英語、フランス語等の個人教授が多くいる。教授料は平均現地語については1時間2エドル、英語は英国人教師の場合1時間10エドルである。

15. 気 候

当国の気候は乾期と雨期（6～9月）に分けられる。乾期は

連日快晴の天気が続き気温は日中室内で15°C～20°C程度であり雨期は連日1～2時間強い降雨があり気温も乾期より5°C程度低くなる。季節の変化は以上の程度であるので一年中同じ服装で過しており雨期にセーター類を着込む違い位である。

主要都市は殆んど海拔1,000 m以上の高地にあり、特にアジスアベバ市は海拔2,400 mの高地であるので気圧が低く急激な運動をすることは健康上よくない。

アジスアベバ市の気温は日本(東京)の4～5月の気温が1年中統いていると想像していただければよい。

## 16. 治 安

### (イ) 一般情勢

1974年2月に軍事革命があり1974年9月に臨時軍事評議会の下に新政権が発足し、従来の帝政より社会主義政策へと変革した。大企業の国営化、農地の国有化等着々と新しい政策が実行されている。

現政権の下で新しい社会主義社会の国造りが進められており政情も安定を保っているが、北部エリトリア州では帝政時代よりの独立運動が今も尚あり同地方については現政府によって問題の解決を計っているが治安状態は未だよくない。

我々専門家の生活に関しては公的私的両面共不安を感じることはなく、公的には計画的に仕事もすまめられるし、私的には住宅、生活必需品の購買、国内旅行も北部エリトリア州を除いては自由に旅行できる。又、一般の生活の貧しい割には物盗りにひったくりなどは殆んど居ないが物乞いする者は多い。(盗難に会う心配はまあない)

(ロ) 夜間外出上の注意

現在当国では夜間の12時以降翌朝5時迄が夜間外出禁止令が發布されている。禁止時間帯以外の夜間外出の際は車を利用し、一人歩きなどはしないこと。

(ハ) 緊急時に於ける大使館等との連絡方法

当地日本人会の手で緊急時の連絡系統が確立されており、大使館との間の情報の伝達及び会員相互間の連絡方法が系統化されている。又、緊急事態発生の場合の対策方法なども大使館と日本人会幹部との定期的な会合ももたれており、必要な情報は電話連絡系統により速刻知ることが出来る様になっている。

17. その他

(イ) 対日感情、現地人気質

対日感情は他欧米諸国に対する感情と変らず、外国として又外国人として接する程度で特に悪くもなくよくもないという状態である。

町には日本製品の宣伝板も多く、自動車、電気製品はじめ多種の日本製品が出廻っており評判もよい。

日本に対する認識は、知識人の間には日本国の援助により又は商用で日本を訪れた人も多くおり、認識も深く親日的であるが、一般の市民は日本が欧米諸国と同じく優れた工業力をもつ国であると云う認識の外は、別に親日的でも反日的でもない普通の感情をもっている程度である。

現地人気質は概しておとなしい衝動的な行動も少ない。大家族主義で、いどこはとごと誰も生活力のある者が衣食住の面倒をみる風習があり、又逆に一方では縁のない親族関

係以外の者に対しては、全然関与しないようである。

一般的には上記の様であるが、我々と特に一緒に仕事をしている者及び使用人については交際してゆく上で、特に注意すべきことはない様である。

(四) 新聞・雑誌等

① 日本よりの購読方法、購読料

新聞・雑誌の海外購読者を対象に専門業としている海外新聞普及会(東京都港区芝浦2-9, 電話453-8311)に希望する新聞・雑誌を予約する。

また、雑誌の中には出版社が直接送付してくれるものもある。(文芸春秋社、講談社、その他)

料 金

○ 新聞類(朝日、毎日、読売等)

Sea Mailについては郵送期間が3ヶ月以上かゝるので略する。

Air Mail (5~10日) 35,000円/月

○ 週刊誌類

Air Mail 25,000円/冊

○ 文芸春秋等厚手のもの

Air Mail 4,000円/冊

② 日本語雑誌等の販売店の有無

ない。

日本人会の中に日本語の単行本、月刊誌、週間誌類の廻読をする会がつくられており、会員の手持の本を日本人会に寄贈し、それを担当者が定期的に会員に貸出してお互に廻読する便宜が計られている。



(イ) 風俗・習慣

① 特に禁じられている風習、食習慣、チップ等

通常の礼儀、作法を守れば特に問題はない。現地人の間の風習は我々外国人にまでは影響力をもたない。

昼休みは午後1時～午後3時までで、普通帰宅して昼食をとる。当国人は茶、コーヒー等を非常によく飲む。チップはヨーロッパよりはずっと安くてよい。

② 専門家としての体面

日本人在住者として相当な生活レベルを維持することが要求される。このことは保健、衛生上の観点からも必要なことである。

(ロ) 理髪・美容、クリーニング

アジスアベバ市内には理髪店・美容院が非常に多い。しかしその大部分は衛生状態が極めて悪く、我々にはとても利用できないがイタリア人経営の店も多数あるので、その種の店に行けば衛生管理もなされている。

理髪料金 10 エドル (イタリア人経営の店)

パーマ料金 30 " ( " )

クリーニング店も非常に数が多い。中には衛生状態の悪い店もある。

Yシャツ 0.5 エドル

背広上下 (ドライ) 5 "

(ハ) 買物

日用品、食料品は市内にスーパーマーケットが数軒あり、そこに行けば外国製のもので売られている。野菜、肉、魚なども売られており全て一軒のスーパーマーケットで日用品の

購入は間に合せることができる。

肉類については、専門の外人経営の店があり衛生管理も行き届いており、牛肉、豚肉、鶏肉、及びハム、ソーセージ等の加工肉食品が売っていて肉類に関するかぎり日本より値段が安い。

専門店例えば、写真機店、電気機器店、眼鏡店等全てあり、日本の人口10万都市程度の街のスケールと想像していたよりもよい。ただし、写真機などの修理は当地ではできない。又フィルム、写真機用水銀電池などは、日本の値段の数倍もするので、当分使用する量程度は持参した方がよい。

値引きは、現地人経営の土産品店では品物によっては半～1/3の値まで値引き出来るが、一般商店では値引はしない。

(v) 赴任時に携行すべきもの（着任時の関係書類、旅券一式の外に）

到着後すぐ必要となる品物はアナカンで大使館の住所宛に送ること。船荷で引越荷物を送る場合は輸送期間を5ヶ月位かゝると思っておくこと。アナカン料金は1Kg当り1,000円相当である。

- ① 仕事の上ですぐ必要とする書籍、参考書類、辞書、その他。
- ② 応急医薬品。
- ③ 船荷がつく迄の当分の間の日本食食料品。例えば、味噌、味の素、日本茶、その他。米と醤油は当地で売っている。
- ④ 鍋、箸など食器及び食事の準備にすぐ必要な炊事道具。
- ⑤ 背広、婦人用スーツ、下着類、靴下、靴、スリッパ等。
- ⑥ 転校生の子女が居る場合は在学証明書、成績表をできれ

ば英文にて作成したものを持参すること。

- ⑦ ラジオ、テープレコーダ、カセットテープの携行。
- ⑧ カーテン生地など市販されているが値段が高いので(約3倍)薄手生地は出来れば持参した方がよい。
- ⑨ 証明用写真 5枚程度。
- ⑩ 印鑑。
- ⑪ その他御気付。

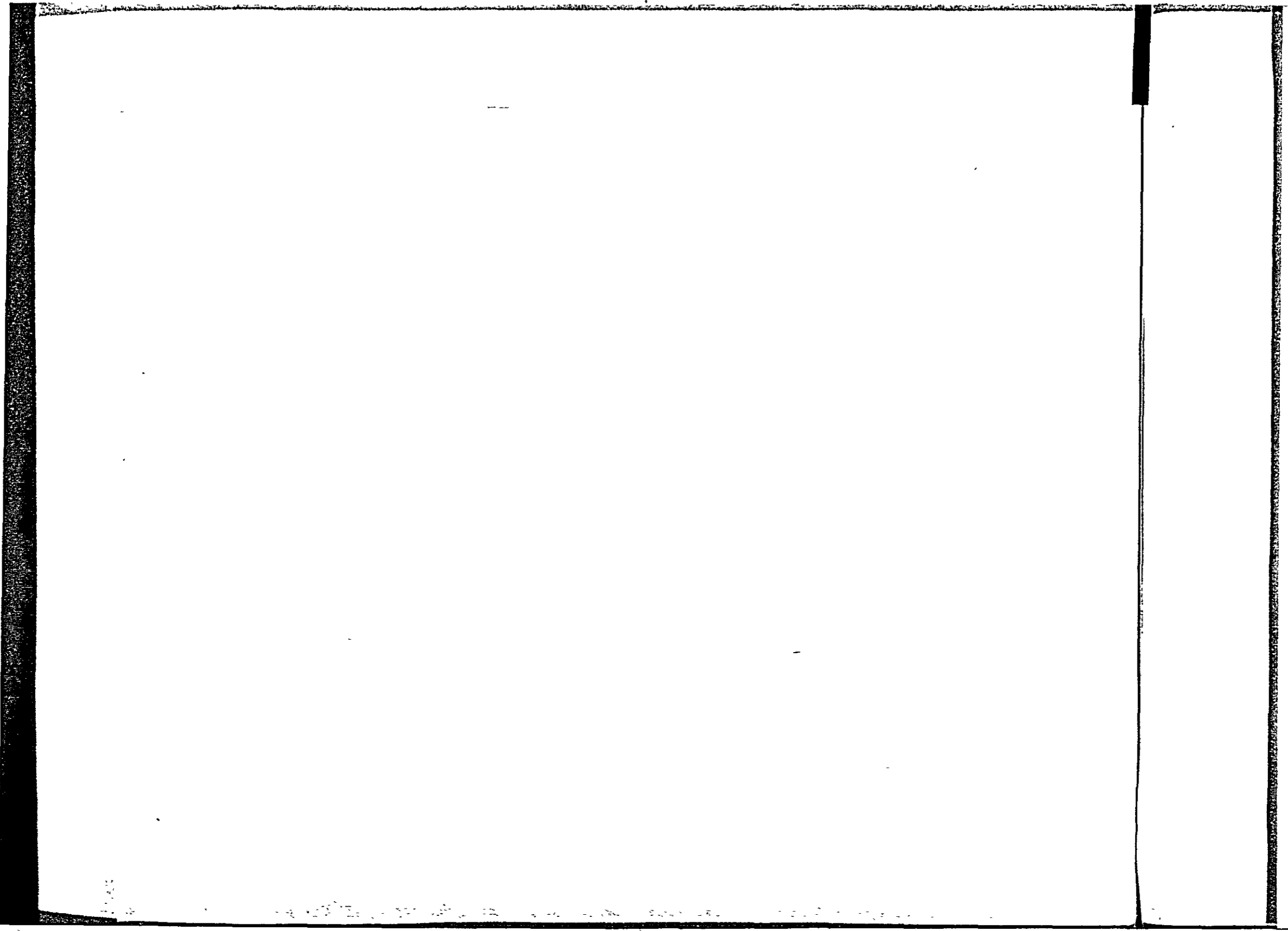
II 同国に対する我国の技術協力実績

昭和49年3月31日現在

形 態	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化 学 工 業	公 益 事 業	運 輸	郵 政	厚 生	原 子 力	経 営 技 術	救 済	行 政	そ の 他	累 計 (人)	経 費 (千円)
研 修 員 受 入	12	1	8	1	11	15		4	6	50	4		4		25	3	144	101,205
専 門 家 派 遣	3		12	4	13	1		7	19	40	26					18	143	372,090
海 外 協 力 隊	3	2	4	1		2		1	8	10	11			3		1	46	37,548

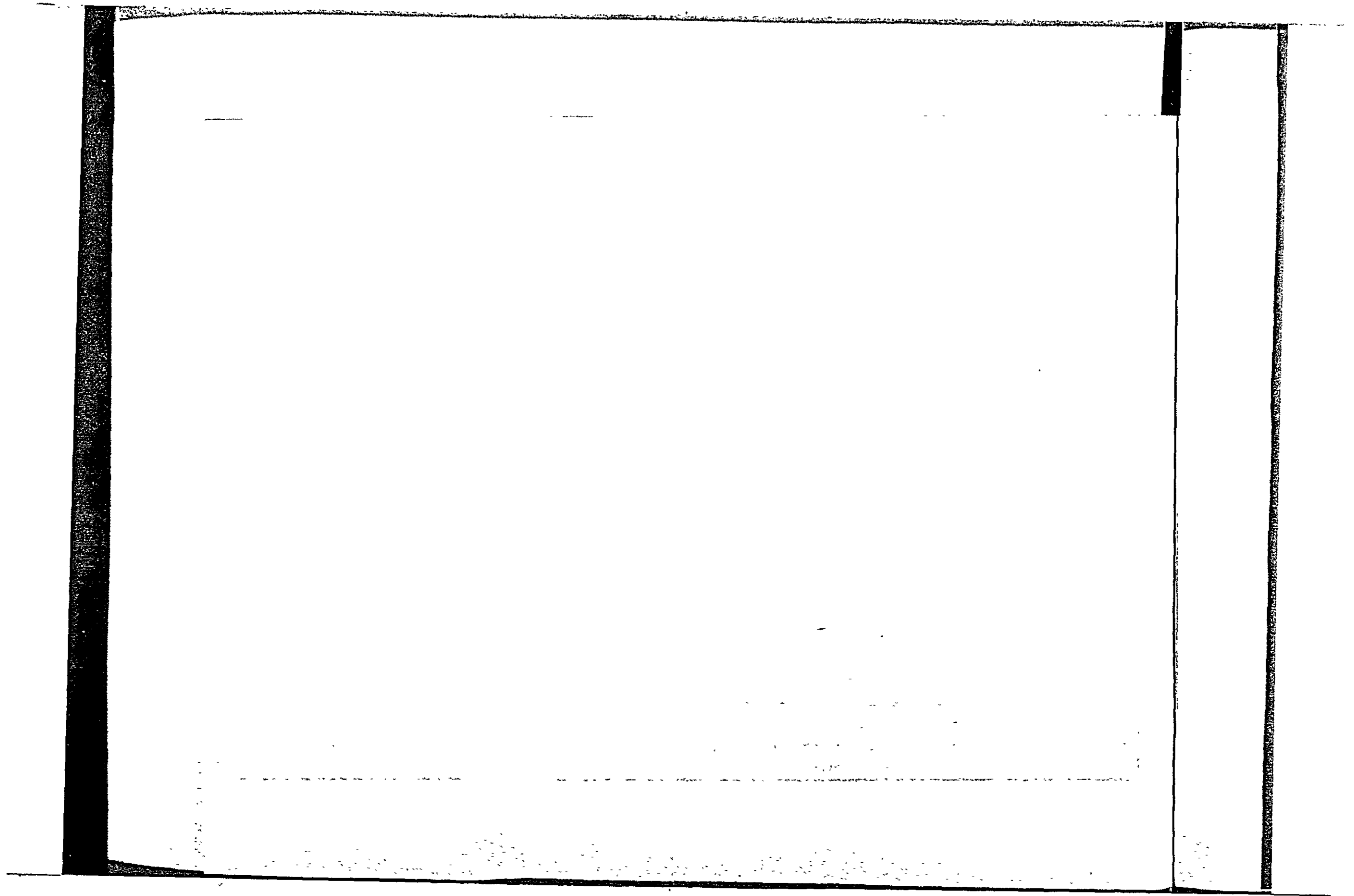
(注) 但し受入、派遣、協力隊の人数については昭和48年度末累計、経費については昭和47年度末累計の数字である。

区分	プロジェクト名	期 間	概 要	年度	派遣人員数		経 費 (千円)		
					専門家等	調査団	機材運送実績	派遣費実績	合 計
開 発	マイクロ回線網建設計画調査	44. 2~44. 3	アジスアベバ~アスマラ間約800kmのマイクロウェーブ回線建設について電話トラフィックの現状及び将来性、既設通信系との関連調査。	43		5		7,389	
		44. 8~44.11		44		10		30,416	
		45. 3							
調 査	中小規模工業経済協力調査	44.11~44.12	カメルーン国を参照のこと(カメルーン、中央アフリカ、ナイジェリアエチオピア)。	44		8		11,219	
調 査	中部マイクロウェーブ回線網建設計画調査	46. 1~46. 3	NO.2~NO.4までのルートにつき、中継地候補探査及び置局選定調査。	45		19		32,103	
		47. 8~47. 9		マンサワ・アツサブ両港の施設改善と拡充計画についてのマスタープラン作成のための予備調査を行ない報告書を作成、及び整備5カ年計画の策定。	47		11		10,139
48. 2~48. 3	48		8			(15,404)			
48. 6~48. 7									
48. 9~48.10									
	港建設計画調査	48.10~48.12							



区分	プロジェクト名	期 間	概 要	年度	派遣人員数		経 費 (千円)		
					専門家等	調査団	機材運送実績	派遣費実績	合 計
開 発 調 査	長期電力開発計画調査	48. 7~48. 9	関連資料の収集、電力需要、供給計画の策定など全土にまたがる長期電力開発計画調査。	48		6		(29,886)	
	西部地区資源開発協力 基礎調査	48. 4~48. 6 49. 1~49. 5	地質調査	48 49		14		(157,412)	
開 発 技 術 協 力	一次産品開発協力基礎 調査	3週間	日本・エチオピア両国の貿易上のアンバランスを是正するため、開発輸入の対象製品の選抜と技術協力の方策調査。 協力の対象産品を油糧種子である「菜種」と飼料作物である「アルファルファ」にした。	47		4		3,004	

区分	プロジェクト名	実 施 内 容	年度	派 遣 人 員				主 要 機 材	機 材 供 与 支出額(千円)	国内協力機関
				規 規		計				
				短期	長期	短期	長期			
医 療 協 力	帝国中央衛生研究所 協力期間： ①昭和42年~昭和46年 ②昭和47年~昭和48年	同研究所は、エチオピア国における細菌、ウイルス、血清、寄生虫、疫学等の検査ならびに研究機関として中心的な役割を果たしている。 また同研究所は、伝染病の診断、生物学的製剤、ワクチン、血清、抗原等の供給やこれらの分野の実験技術者の養成訓練等を行うことを主業務としている。 本プロジェクトは昭和46年度にて終了し、以後2年間フォローアップ的協力を実施する。	42			1	1	実体顕微鏡	5,708	国立予防衛生研究所
			43	1		4	5	光学機械、医薬品	8,838	
			44	5		4	9	分光光度計	12,167	
			45	5		2	11		0	
			46	5		2	11		0	
			47	3		2	5		0	
			48	5			5		0	

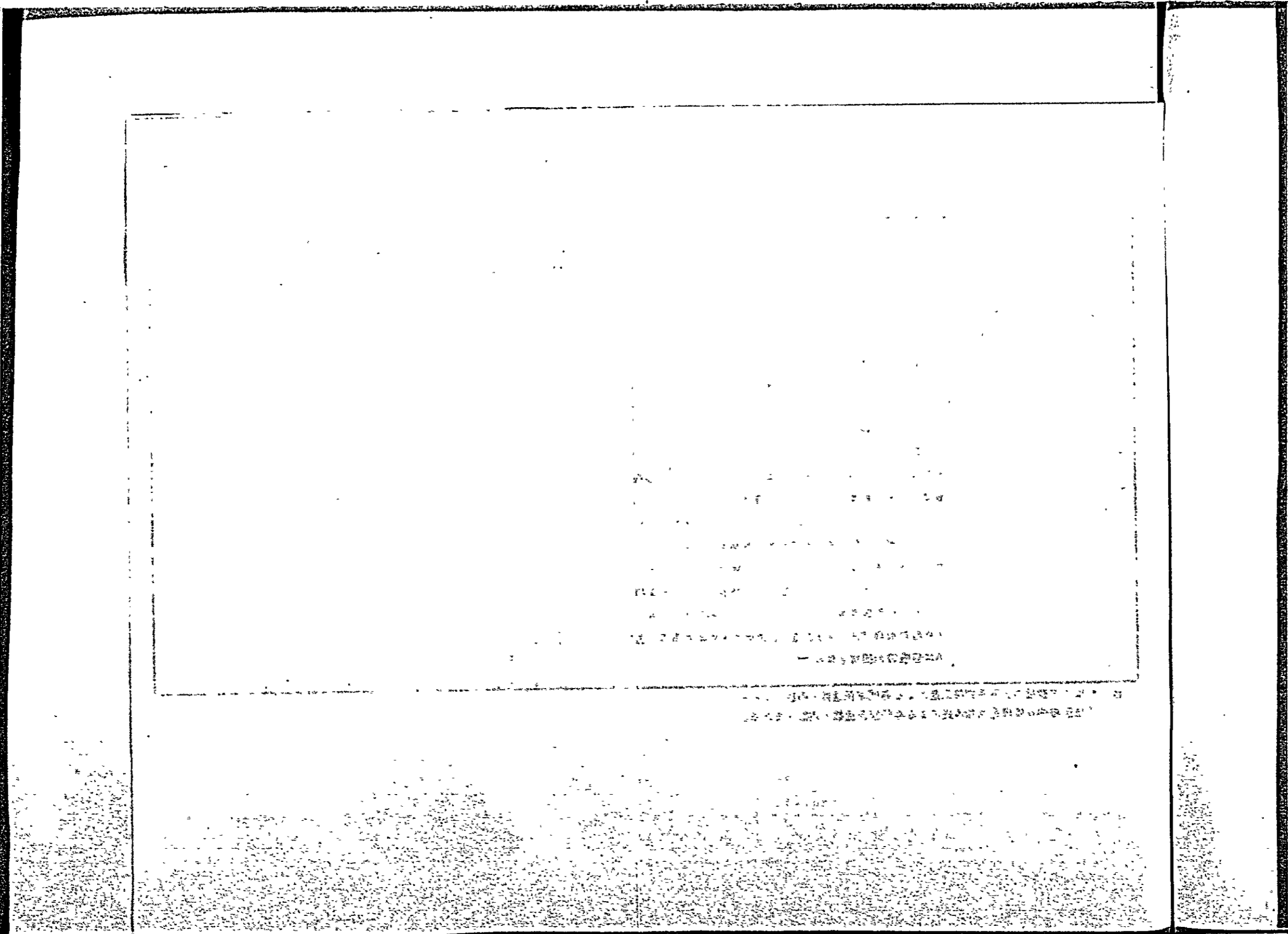


区分	プロジェクト名	実施内容	年度	派遣人員				主要機材	機材供与 支出額(万円)	国内協力機関	
				総 統		新 規					計
				短期	長期	短期	長期				
医 療 協 力	天然痘対策 協力期間 ①昭和47年～昭和48年 ②昭和49年	世界の天然痘は東南アジア、アフリカ、南米に常在地域があり、そこから欧州、北米、日本等に時々侵入して流行を起していた。WHOは昭和41年より天然痘撲滅計画の実施に着手し、その結果、昭和41年、30ヶ国もあつた天然痘常在国は昭和46年末には6ヶ国に減少した。特にアフリカ中西部において殆ど発生が見られなくなったが、東南部では依然として発生が続いており、その中でもスーダンとエチオピアが問題とされていた。 昭和45年、WHOは天然痘対策についてエチオピア政府と協議し、その結果、日本の協力を要請することとなつた。 昭和46年12月、実地調査団を派遣し、同調査団とエチオピア政府との間で取交わされた台意議事録にもとづいて天然痘撲滅計画に参加することになり、WHO、エチオピア政府、および日本政府の三者で協力し、種痘の実施、感染経路の追跡、野外調査等を行うことになつた。昭和47年度には、天然痘対策専門家1名を派遣し、同時に天然痘対策車、通信用無線機等の機材を供与した。	47			1	1		0	長崎大学	
			48	1		1	2		0		

① は大学教授の公開手術等派遣による専門家派遣数(内数)である。

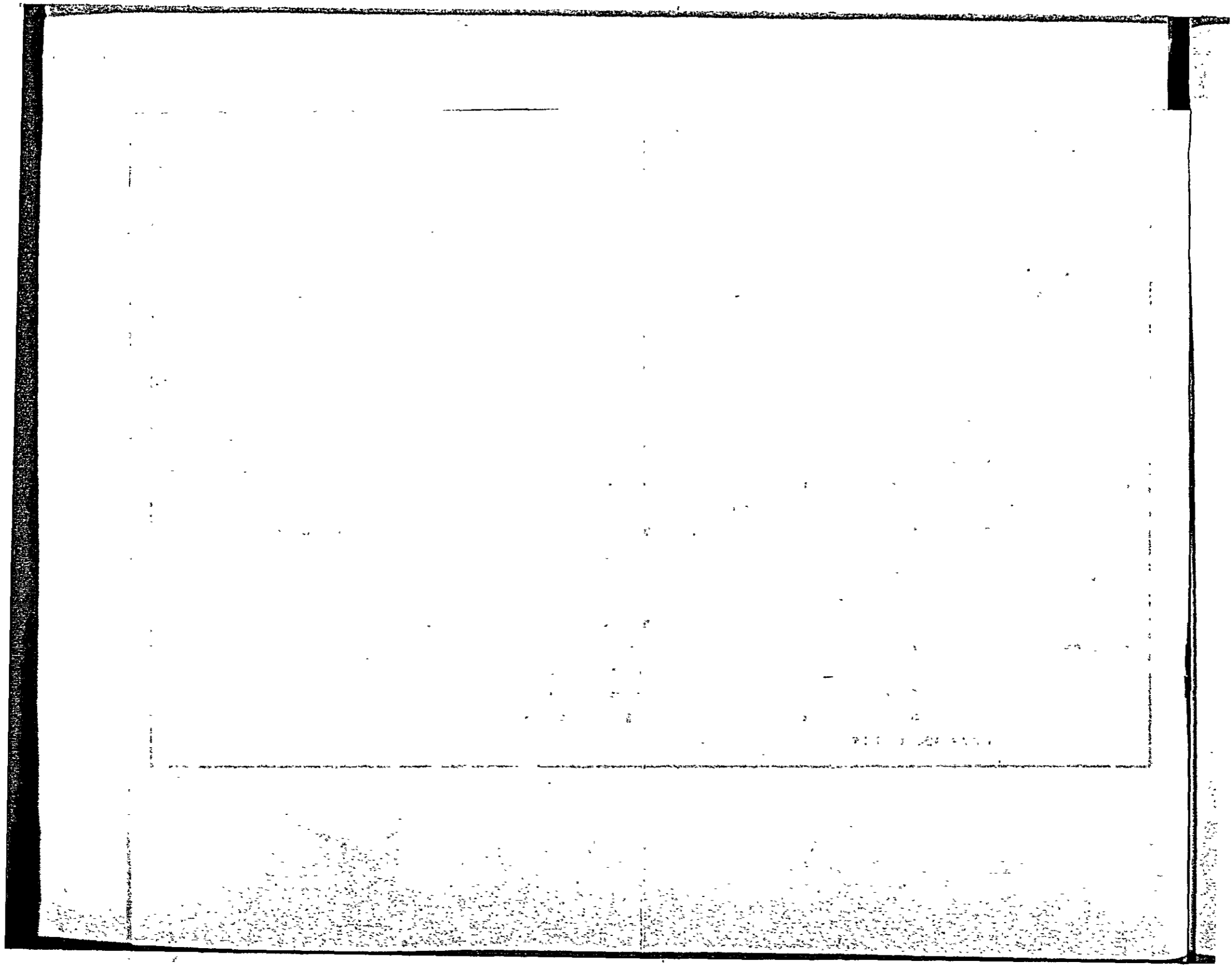
② は医療機材管理巡回指導班による専門家派遣数(内数)である。





区分	年度	機 材 名	機 材 供 与 先	経 費 (千円)
単 独 機 材 供 与	40	移動無線通信装置	情報省	5,555 (1,979)
	45	さく井機材	水資源審議会	18,277
				注：( )は前年度支出経費で 外資である。

参 考	国内の80~90%が農業、牧畜に従事し、農業生産はGDPの5~6割を占めるが、その7割ぐらいは自給農業である。主産物はコーヒー、皮革、穀物、野菜で、コーヒーは輸出の60%を占める。 工業は、GDP寄与率が5%程度で、主な産物は、糖、セメント、タバコ等である。鉱物資源は未開発。インフラ部門の運輸通信、エネルギーをはじめ教育、医療サービス等全般にわたり著しくおくれしており、LLDCの一國。		
第4次5カ年計画 (1974/75~ 1978/79)	1957年に長期経済開発計画が策定された。これは長期25年の経済的、社会的展望に立ち、これを5次にわたる5年計画に区分し、各年度計画はその時の経済財政事情や前期計画の結果などを勘案して具体化されるもの。 第4次計画の概要は、①経済成長率を年6.0%~6.5%、②農業部門の成長率を3.3%、③非農業部門の成長率を8.8%、④輸出増加率を年8.5%にするというもの。		
日本の経済協力	円 借 款	地下水資源開発、国際空港ターミナルビル拡張、ポリエステル・レーヨン産業等に対する資金協力として12百万ドル(1972年)	
	そ の 他	一社の雇用労働者では最大規模のCotton Company of Ethiopiaをはじめとする合弁会社、豊富な家畜資源を原料とする輸出産業として注目される。牛肉エキス製造工場、及び北部で日本企業による銅鉱開発計画等の民間ベース協力がある。	
各国の技術協力	米 国	5,000 千ドル	イタリヤ 800 千ドル
	スウェーデン	3,560 "	日 本 563 "
	西 独	2,992 "	その他 898 "
	英 国	1,940 "	計 15,753 "
(DAC諸国、1972年)			



Ⅲ 大使館連絡先

住 所 Embassy of Japan.  
Maskal Square,  
Finfinne Building, 2nd floor,  
Addis Ababa, ETHIOPIA  
(P.O. Box 1499)

電 話 448215 (代表)

TELEX 21108 TAISI ADDIS

電 略 TAISHI. ADDIS ABABA

